

小児医療と医療倫理～立ち止まり、選択を意識し、中庸を目指す～

金城 隆展

琉球大学病院 地域・国際医療部

医療の質と安全を向上させる上で重要と考えられる倫理だが、「難しく面倒なもの」「聖人君子な生き方」と理解されがちだが、実の所、倫理は私たちがよりよく豊かに生きる上で必要不可欠な、より身近で具体的な実践である。人生とは選択の連続であり、私たちは言うまでもなく毎日選択して生きている。倫理とは「私たちが何かを選ぶことに関すること」であり、私たちは選んでいるという意識があって初めて倫理的になることが出来る。すなわち、この意味で倫理とは「選択に向き合う私たちの姿勢」に他ならないのである。私たち1人1人が毎日の小児医療の臨床で「何かおかしいぞ」と思った時にしっかりと立ち止まり、独断・独善に陥ることなく、思考停止することなく、手順を踏み、参照し、対話・協議しながら、かつ、小児の意見と視点を共同意思決定プロセスに出来る限り反映させるように努力しつつ、小児の最善を探求する義務と両親の意向の丁度中間でためらい悩みながら（中庸を心がけながら）、皆で「何をなすべきか」を考え続ける「姿勢」が小児医療の倫理であるということを皆さんと一緒に考える時間としたい。